

今年も新しい生徒たちが、各学校に入学しました。

今、すべての生徒が、新たな気持ちでチャレンジしようとしています。

1日も早く、安全で安心できる環境の中で、落ち着いた学校生活を送れるようにとの願いを込めて、人権学習資料「新たなるステージ～なかまとともに～」を作成しました。

この取組が、「自分がクラスにいて大丈夫そうだ」という学校が安全で安心できる場であることや「ここで、なにか頑張れそう」というプラスのエネルギーで満たす一助となることを願っています。

この教職員用指導資料は、本人権学習資料をオリエンテーションやホームルーム等で活用いただく際の参考となるよう、その「主題」「主題・資料について」「ねらい」「展開例」等を掲載しています。

なお、人権学習資料「新たなるステージ～なかまとともに～」及び「教職員用指導資料」は、人権・地域教育課人権教育系のホームページよりダウンロードできます。

1. 主 題

自尊感情の醸成 集団づくり ネット利用によるトラブルの防止

2. 主題・資料について

自尊感情は、自分の大切さに気付き、自分を価値ある存在として尊重し認める気持ちです。「他者を大切にする」ためには、まず、「自身を大切な存在として受けとめる」ことが必要です。それは、正解や特効薬のようなものではなく、その時々によさわしい、個々に合わせた取組を積み重ねて育成していかなければいけません。

例えば、教職員が担当するクラスの生徒全員の名前を覚えていることは、生徒にとって存在を認められている安心感を与えます。さらに、自分が大切な存在だと感じるでしょう。

自尊感情は、人と人との関わりの中で育まれていくものです。他者に受け止められることで、自尊感情は高まり、自尊感情が高まることで、他者を受け止めることができるようになります。また、その個人が属する集団にも良い影響を与え、よりよい集団づくりにつながると考えられます。その点からすると、自尊感情の醸成は集団づくりと表裏一体のものとして捉えることができます。

集団づくりとは、一人一人違った個性をもち、別々の場所で暮らしてきた生徒たちを丁寧につなぐこと、互いに支え合う人間関係をつくり出すことです。その取組は生徒たちの意欲を育み、未来を切り拓くパワーの源になります。

集団づくりを進めるには、生徒たちが関わり合う場面を創出し、活動を通して互いを知ることが求められます。その中で、多様な価値観があることに気付き、受容する態度が培われます。

高校入学という新しいステージに立つと同時に個人のスマホ所有率が上がるこの機会に、たとえネット上であったとしても、画面の向こうにいる人のことを気遣い、自身の発する言葉に責任をもつ態度を養うことが求められます。

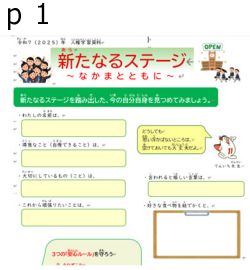
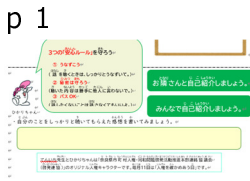
また、高校生活の中で生徒自身がいじめなどで困ったときには、一人で苦しまずに必ず信頼できる誰かに相談してほしいことを伝えるとともに、相談窓口の紹介をはじめ、日頃の教職員からの働きかけにより、生徒が相談しやすい環境づくりを目指していくことが求められます。

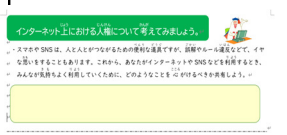
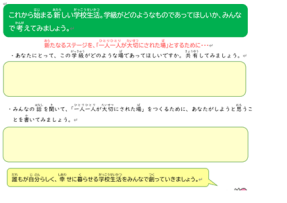

本資料は、生徒と教職員が自尊感情の醸成と集団づくり、ネット利用によるトラブルの防止等について、共に考える場を想定して作成しています。

3. ねらい

- ・自分自身を見つめ、ありのままの自分を言葉で表現する。
- ・互いに受け止め合い、自他共に大切にしようとする態度を身に付ける。
- ・ネット利用によるトラブル等を防止し、ICTのよき使い手となると同時に、よき社会の担い手になることを目指す教育の第一歩とする。
- ・誰もが安心して過ごすことのできるクラス集団づくりに向け、意欲を高める。

4. 展開例

	主な学習活動	指導上の留意点	活用するシート
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・入学して間もない今の気持ち（希望、期待、不安など）を見つめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発言を求めてもよい。 ・クラスの生徒それぞれの今の気持ちを踏まえ、みんなでよりよい学校生活にしていくことを伝える。 	
展開	<p style="text-align: center;">今の自分（ありのままの自分）を見つめてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の自身の状況や思いについて振り返り、記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して活動できる雰囲気をつくり、意欲的に記入するよう促す。 ・特に思い浮かばない項目は空欄のままでもよいこと、他者に知られたいくないことは書かなくてもよいこと等を伝える。 ・指導者が自身の例を示すことも有効である。 	<p>p 1</p> 
	<p style="text-align: center;">みんなで自己紹介をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介の前に、記載の「安心ルール」をみんなでしっかりと確認する。特に、話したくない内容は無理に話さなくてもよいことを伝える。 ・グループになり、順に自己紹介を行っていく。 (好きな食べ物の絵を見せ合い、好きな食べ物を言い当てるなどの活動を取り入れると自然の会話が生まれやすい) ・自分のことをしっかりと聴いてもらえた今の気持ちをワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが話しやすい雰囲気をつくるため、3つの約束以外で確認しておきたいルールについて生徒から意見を求めてもよい。 ・自己紹介をしているときは、聴く側はしっかりと傾聴に努めることを伝える。 ※早く終了した場合は、自己紹介の内容を踏まえたグループのフリートークの時間にしたり、グループ替えを行ったりするなど、クラスの実態に応じてアレンジすることが考えられる。 ・ありのままの自分を表現し受けとめられた時の心地よさや安心感を味わわせる。 	<p>p 1</p> 

	<p style="text-align: center;">インターネット上における人権について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「これから、インターネットやSNS等の利用において、心がけていくべき内容」について考え、記入する。 できれば、記入したことを発表し合い、クラス全員で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ネット上における様々な差別事象や個人情報暴露による人権侵害の事例等にも触れ、匿名性のあるネット上での軽はずみな発言が画面の向こうにいる人を傷つけることがあることを押さえる。 人権教育と併せて、生徒一人一人がICTのよき使い手となると同時に、よき社会の担い手になることを目指す「デジタル・シティズンシップ教育」の取組の第一歩とする。 	<p>p 2</p> 
展 開	<p style="text-align: center;">これから始まる学校生活やクラスについて考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「自分たちのクラスがこうありたい」と思うことについて、ワークシートに記入する。 「一人一人が大切にされた場をつくるためにどのようなことが必要か」「しようと思うこと」を考えさせ、自身の考えをワークシートに記入する。 記入したことを発表し合い、クラス全員で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 板書等により視覚化して共有することはより効果的である。 一人一人の個性や特性のちがいを認め合い、互いの人権を尊重することの大切さについて考えさせる。 <p>※時間に余裕がないときは、ワークシートを回収し、プリントに整理して共有することも考えられる。</p>	<p>p 2</p> 
	<ul style="list-style-type: none"> 時間に余裕があれば、「高校生支援サイト」の「みんなのぽかぽかランド」にアクセスし、相談窓口の紹介ページなどを閲覧してみる。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後、困った場合、身近な人に相談しづらいときは、相談窓口などに相談する手段があることも伝える。 	<p>p 2</p> 
ま と め	<p style="text-align: center;">今回の活動を振り返り、自他の人権を尊重する大切さを確認しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本日の学習活動を振り返るとともに、自他の人権を尊重する大切さについて確認する。 人権教育学習資料集「なかまとともに」を紹介するとともに、学校での人権教育の取組の説明等を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 誰もが自分らしく生活できるクラスづくりについて考えさせる。 互いをありのままに受け止め、大切にすることを築こうとする意欲につなげる。 スマホ等の利用による他人を傷つける行為に対して改めて注意を促し、「いじめ」防止につなげる。 指導者自身の経験談等も交えながら、改めて生徒たち自身が人権教育の大切さについて実感できるようなまとめを行う。 	

展開例については、各学校・学級の実態に即し、適宜アレンジして御活用ください。

人権教育の推進に向けて

1. 人権とは

人権とは、「人が生まれながらにもっている必要不可欠な様々な権利」を意味します。

人権の内容には、人が生存するために不可欠な生命や身体の自由の保障、法の下での平等、衣食住の充足などに関わる諸権利が含まれています。また、人が幸せに生きる上で必要不可欠な思想や言論の自由、集会・結社の自由、教育を受ける権利、働く権利なども含まれています。このような一つ一つの権利は、それぞれが固有の意義をもつと同時に、相互に不可分かつ相補的なものとして連なり合っています。

2. 人権教育とは

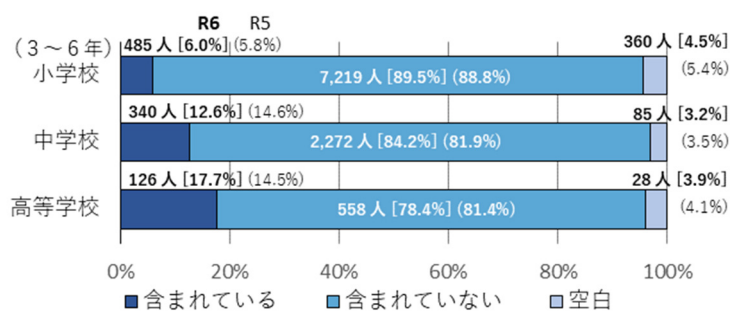
人権教育は、自他の人権の実現と擁護のために必要な資質や能力を育成し、発展させることを目指す総合的な教育活動です。

「人権の実現」とは、一人一人が自分らしく生きていける社会をつくり出すとともに、社会をよりよく向上させていこうとする積極的な面を表しています。「人権の擁護」とは、人権が守られた状態を保持するとともに、人権が侵害されているときはそれを回復することです。「総合的な教育活動」とは、全ての教育活動の基盤に人権教育の理念をしっかりと根付かせ、教育活動（学校教育、社会教育）全体を通して取組を進めなければならないということの意味しています。

令和6年度「人権を確かめあうアンケート」の結果を受けて

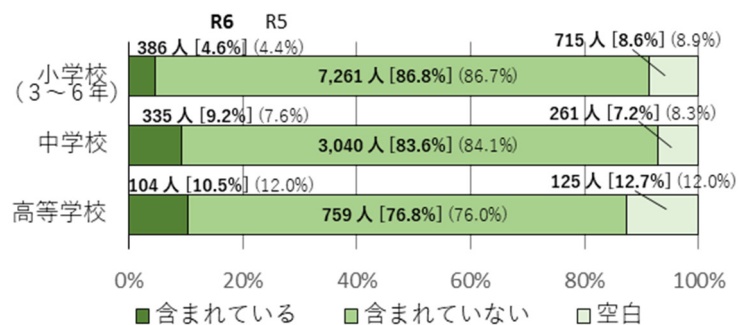
- ・「嫌な気持ちになったことがある」と回答した児童生徒のうち、ネット上（SNSや掲示板、オンラインゲームなど）で嫌な気持ちになったことについて

○嫌な気持ちになったことについて、ネット上で
されたことは含まれているか



- ・「相手を嫌な気持ちにさせたことがある」と回答した児童生徒のうち、ネット上（SNSや掲示板、オンラインゲームなど）で嫌な気持ちにさせたことについて

○嫌な気持ちにさせたことについて、ネット上で
したことは含まれているか



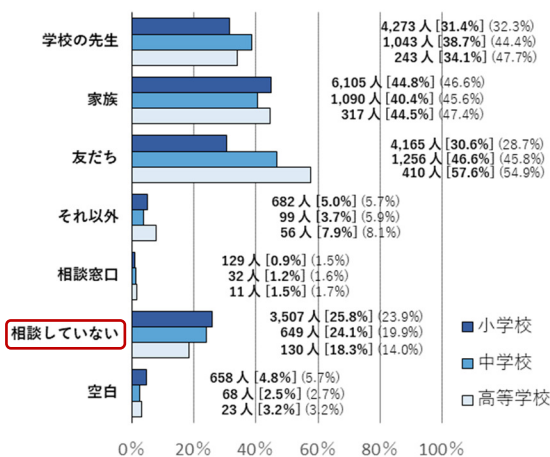
中学校や高等学校では、PC・スマホ等によって自身が嫌な気持ちになったこと、さらには相手を嫌な気持ちにさせたことの割合が共に高くなります。

SNS等における軽はずみな書き込みから、相手を傷つけてしまうことがないよう、言葉のもつ力、相手に与える影響について考え、自身の発する言葉に責任をもつ態度を養うことが求められます。

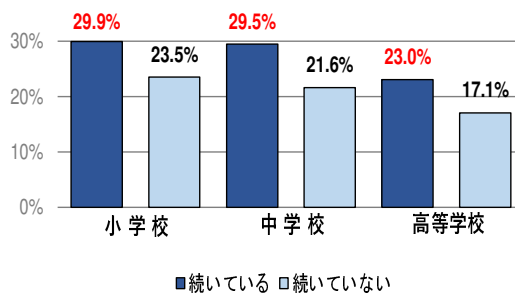
さらに、個人情報の重要性にも触れ、安易な情報発信が他人や自身の個人情報の流出につながる可能性があることについても押さえておく必要があります。

・嫌な気持ちになったことの相談について

○嫌な気持ちになったことの相談先



○嫌な気持ちになったことを、「誰にも相談していない」と回答した児童生徒の「嫌な気持ちになったことの継続」について



嫌な気持ちになったことの相談先として、約半数の生徒が「友だち」と回答していましたが、その一方で、約6人に1人の生徒が誰にも相談していないことがわかりました。また、相談していない生徒で、嫌な気持ちになったことが継続していると回答した生徒の割合は、続いていないと回答した割合が高く、今なお不安の中にいる可能性があります。

困ったときは一人で苦しまずに、必ず信頼できる誰かに相談してほしいことを伝えとともに、相談窓口の紹介をはじめ、日頃の教職員からの働きかけにより、生徒が相談しやすい環境づくりを目指していくことが求められます。

人権教育学習資料集「なかまとともに」について



人権教育学習資料集「なかまとともに」は、児童生徒用教材集及び指導資料集、DVD教材で構成されており、自尊感情の醸成と集団づくりのための教材、人権一般の「普遍的な視点からのアプローチ」と具体的な人権課題に即した「個別的な視点からのアプローチ」の双方向からバランスよく学ぶことができる教材を、生徒の発達段階を考慮して配列しています。また、人権教育を通じて育てたい資質や能力（知識的側面、価値的・態度的側面、技能的側面）を育成する教材を系統的に配列しています。

各学校において、「なかまとともに」を活用していただき、人権教育をさらに推進していただくことを期待します。

「人権」や「人権を尊重する具体的な行動」についての学習には、人権教育学習資料集「なかまとともに」等を活用してください。

奈良県教育委員会事務局 人権・地域教育課 人権教育係	https://www.pref.nara.jp/3326.htm
奈良県先生応援サイト	https://www.e-net.nara.jp/ouen/
高校生支援サイト「Dear Seeker」	https://sites.google.com/e-net.nara.jp/deer-seeker/home

※上記のホームページには、人権教育に関する様々な資料等を掲載しています。